

# オープンドア 始まる

## 希望



チューリッヒ日本人学校  
学校便り

2018年5月14日(月)  
第5号  
発行 校長 東 明彦

5月も第3週に入りました。学校の授業は順調に進んでいます。7日(月)からはクラブ活動が始まり、バスケットボールなどをして体を動かしています。今週は「オープンドア」の1週間です。保護者の皆様をはじめ、学校関係者の方々に授業の様子を参観いただく期間です。15日には運営委員会が予定されているので、学校の様子もご覧いただく機会が持てるかもしれません。各学級では、これまでの学習を積み上げた成果として、廊下などには児童生徒の作品や学習内容の掲示物が貼られています。中には、谷川俊太郎さんの詩を読んだ後に、自分で詩を作って、画用紙に書いた児童もいます。なかなかの出来栄です。特に最後の行が素敵です。学校に来られたら一度ご覧ください。

このオープンドアは、今年の学校教育目標の1つでもある「開かれた学校」の創造を達成するための活動です。本校の場合は、日常的に保護者の皆様との連絡や連携は大変に密度が高いと思っていますが、実際に授業の様子をご覧いただき、現在の日本の教育が目指すものについて、また、チューリッヒ日本人学校として特色と創意工夫が見られる教育内容を実践しているか、といった観点から意見や感想をいただくための活動です。少人数の学校であることを生かした教育や授業になっているのか、まだ足りないところは何か、そういったことを率直にお聞かせいただければ大変にうれしいです。お気軽に授業をご覧いただければと思っています。来ていただいた皆様のご意見等を、可能な限り教育内容に取り入れていくことができればと思います。それが、今求められている「カリキュラムマネジメント」にもつながっていくと考えています。

## 人それぞれ書を読んである良夜かな

やまぐちせいそん  
山口青邨

先日まで中学部では、国語で論語の言葉を学習していました。その中に「学びて思わざれば則ち罔し(くらし)、思いて学ばざれば則ち殆し(あやうし)」という言葉が出てきます。「学ぶ」とは本を読んで学問を修めること。「思う」とは自分で考えるという意味だと言われています。学ぶだけではだめだが、学ばなくてはだめだ、と私は解釈しています。2,500年以上前の孔子の時代には、人として自立し、人を指導していく立場に立つためには、学ぶこと＝本を読むことの大切さは切実だったようです。

今の時代は、知識を得るためにはたくさんの情報源があります。インターネットで検索をかければ、目指す知識には数秒で行きつくことができます。しかし、読書の意味は「知識を得る」ためだけではありません。一つの言葉をきっかけに、知らなかった世界に深く入り込んでいくこと、自分自身との対話の時間を深く長く持つこと、それが読書のもつ大きな意味だと思います。上の俳句は「人」と表現していますが、人とは家族のことだと私は解釈しています。家族それぞれが自分の気に入った本を読んでいる、それはたとえ幼い子であっても、人として自立しているような凛とした雰囲気を持っていて、俳句の作者はそれを感じて「自立した人」としての敬意をもって「良夜」という季語を使ったのだと私は解釈したいです。

読書には、インターネットにはない「回り道の効用」があるとも言われています。本を通して、自分が知りたいことを探し出すためには長い時間がかかります。インターネットなら数分で済むところを、本を読んで調べるとなると数日、時には数か月、何年もかかることさえあります。効率はとても悪いです。しかし、その時間の中で、インターネットでは得られなかった知識や考え方を「回り道の中で見つける」ことがたくさんあります。幼い子の「道草」に似ているといってもいいかもしれません。学校からの帰りに、あっちで虫を見つけ、こっちで花を見つけ、あそこでオタマジャクシを見つけ……そうしているうちに知的好奇心が育ち、自分だけの本物の知識を得る力やその知識を人のために使う力がついていくのかもしれない。チューリッヒ日本人学校では、読書を全児童生徒に薦めていきます。



## 畑ができています！！



5月のさわやかな空が広がるこの時期に、それぞれの学級では学校の畑を耕し、雑草を引いて作物を植えています。2年生学級は、明日15日に植える苗を買いに行く予定にしています。どの学年も、校外学習に出る前には校長室に来て、「今から畑に植える苗を買いに行きます。」と連絡して出かけます。帰校した時には、「今帰ってきました。」と報告をしてくれます。私が「何の苗を買ってきましたか？」と聞くと、それぞれに目を輝かせながら生き生きと話してくれます。

「ジャガイモ・ニンジン・カボチャ・パプリカ・トマト・スイカ」などなど、様々な苗を植えています。「苗を買ってきて、それで終わりではないですよ。これからが大事ですよ。しっかりと水やりを忘れないようにお願いします。」と言うと、分かっています！といった表情で「ハイ」と返事をしてくれます。楽しいひと時です。

植物は話しません。それだけに、育てる人の思いやりがなければ育ていけないのです。ジャガイモやニンジンなどを育てながら、子どもたちは自分と思いやりの心を育てているのだと思います。体験を通して、心を育てる本校の教育の中核です。どのように育っていくか楽しみです。お母さん方が、時間があるときに畑の草を引いてくださっています。お母さん方の思いやりも詰まった作物の収穫ができると期待しています。ありがとうございます。



## お世話になりました 親睦会

5月6日（日）に保護者会の親睦会委員の皆様のお世話により総勢49名の皆様にご参加いただき、チューリッヒ日本人学校親睦会が開催されました。

委員の皆様には午後1時から準備等をお世話になり、教職員も全員楽しく参加させていただきました。小さな子どもたちへの配慮も十分にいただき、それぞれの家庭の紹介、それに続いてジェスチャーゲームを進めていただき、和やかでとても楽しい時間を過ごすことができました。

児童生徒全家庭の皆様と教職員の家族が一堂に会し、いろいろと話をしたりゲームに興じたりといった学校はチューリッヒ日本人学校しかないと思います。今年度赴任したばかりの教職員は、初めはかなり緊張して参加をいたしました。皆さんが心安くお話して下さったおかげで、すんなりと皆さんに溶け込むことができましたように思います。このような会を通して、児童生徒・保護者・教職員が和やかに、そして率直にお話ができる関係ができたと感じています。ありがとうございました。



## 母の日



5月13日（日）は母の日でした。母の日はアメリカから始まったと言われていますが、いろいろな国で「お母さんに感謝する日」として5月を中心に祝いや行事が行われているようです。ここスイスでも、花屋さんにカーネーションなどが目立ちました。もともとは白いカーネーションを送ったのが始まりだと言われていています。

毎日、仕事や家庭のこと、食事のことなど、たくさんのことをして下さっているお母さんに、「いつもありがとう。」の一言を子どもたちは言えたでしょうか。中には、照れくさくて言えなかった、お母さんからすれば、言ってほしかったのに……ということもあったかもしれませんね。私は素直に「ありがとう」が言えずに母はなくなってしまいました。自分で弁当を作るようになり、漬物を御飯のはしっこに乗せる母の癖と同じようにしている自分に気が付きました。今からでも言えなかった「ありがとう」を言わなければいけないな、と思っています。